

第 11 回大気環境目標値部会の質問と回答

1 「参考資料 1 第 10 回大気環境目標値部会の質問と回答」に対する質問と回答

特になし。

2 「参考資料 1-2 NO_x、VOC 排出量削減による O_x 改善効果の推定」に対する質問と回答

	質問、意見の概要	事務局の回答
1	図の傾向としては、前回の資料と違いはなく、VOC の排出量は 5 分の 1 にしても O_x 濃度はそれほど下がらない。また、NO_x の排出量を減らすとオゾンが減るという結果。 図 3 をみると VOC を 8 割、NO_x を 7 割減らしても、O_x は 83ppb と環境基準は満たしていない。 図 4-1 をみると、VOC、NO_x を減らしても O_x はさほどへらない。 そこで、VOC、NO_x の排出量をゼロ、ないし 100 分の 1 などにして、人為的な排出量をなくしたらオゾンがどうなるか検討したほうが良いのでは。 仮に減らしても、環境基準を達成しないのであれば、他地域からの流入など、市内排出量削減以外のことを考えなければいけない。	排出量を 0 に限りなく近い状態にして、計算をしていきます。 <事務局補足> NO_x および VOC の排出量を 0 として、2005 年 6 月 25 日のオキシダント濃度の計算を行いました。 その結果、守山保健センターで、最高濃度が 62ppb、惟信高校で 67ppb となり、どちらも環境基準の 60ppb を超える結果となりました。
2	このモデルでは、排出量を減らす時に今の排出構成のまま減らしている。実際はそうなるかはわからない。 O_x に効きそうな物質を集中的に減らしたらどうなるかをみると、政策目標を検討するうえでよいかもしれない。	

3 「参考資料 1-3 PM_{2.5} シミュレーションにおける将来予測結果について」に対する質問と回答

特になし

4 「資料1 市民に分かりやすい指標の検討」に対する質問と回答

	質問、意見の概要	事務局の回答
3	目視評価5と6の違いが分かりにくい。	以上や以下等、表現を修正いたします。 〔資料2 頁3、4 参照〕
4	目視評価からSPM濃度を割り当てるとのことであれば、この表でよいが、相関指標として出すのであれば、もう少しざっくりしたものでよいのではないか。	指標については、別途ご相談させていただきたいと思います。 ＜事務局補足＞ 次のとおり修正いたします。 〔資料2 頁4 参照〕
5	資料1のグラフについて、グラフの縦軸が頻度を表しているにもかかわらず、軸ラベルに「相関係数」と書いてあるが、「頻度」ではないか。また、グラフ内では、相関係数-0.5未満と書いてあるが、本文中では、0.5以上とあるので、統一した方がよい。	そのとおり修正いたします。 〔資料2 頁2 参照〕

5 「資料2 中間とりまとめ（案）」に対する質問と回答

	質問、意見の概要	事務局の回答
6	(付帯意見4について) 対策の「ほか」と書くより、「ため」にと書いた方がよいのでは。	修正案については、今後調整させていただきます。
7	(同上) 環境基準・指針値が定められていない大気物質っていうのは、もっと他の、PM2.5 構成物質以外にも、いろいろあって、そういうことについて、まだわからないけど、調査進めていくことによってですね、たぶん。そういうことだと、「ほか」で良いのではと思いました。	＜事務局補足＞ 次のとおり修正いたします。 〔資料3 頁12 参照〕

	質問、意見の概要	事務局の回答
8	(資料4について) 35 ページの国交省のデータについて、公表されているのはこれが最新だと知っているが、やはり古すぎる。今回の答申に間に合うかは別として、国交省は最新のデータを持っているかもしれないので、行政間で連携してデータをもらうなど、検討いただければ。	今後の課題として、把握させていただきます。
9	(全体の構成について) 第4のところで継続審議の結果が記載されており、さらに、継続審議結果を含めた全体のまとめという形で第5なっていますが、ここは、第4の総括のような形、つまり、継続審議結果の総括にしてもよいのでは。それで、第4のところが、パブコメかける対象となるという風に理解したのですが、いかがでしょうか。	最終答申ということで、全体のまとめというような編集をしています。意見を聞きたい部分が後半部分になりますので、今ではアンダーラインとか斜線となっていますが、ちょっと工夫したいと考えております。 また、概要版というのを作って、その中では、委員が指摘のようにどの部分について意見を聞きたいのかというのが分かるような形で編集して臨みたいと思います。 <事務局補足> 別紙のとおり修正いたします。 〔資料2 頁10 参照〕
10	(付帯意見について) 他の自治体との連携・協力は抽象的、具体的に示せばもっと良い。	今回名古屋市内の発生源でシミュレーションをかけて、名古屋市の自治体としては、その部分について責任を持っていく考えでおります。 関係自治体との連携、名古屋市の発生源が市外に影響を及ぼしているということは当然あると思いますし、名古屋市が今後とっていく施策による排出削減によって、いくばくかは他の自治体の改善に影響を及ぼすとも考えています。 現在でも、県内や東海他の自治体との会議などがありますので、そういった場で協力していければと考えています。
11	(同上) 16%という断定的な数字が書いてありますので、連携しようとする県など他の自治体とお互いの考え方のすり合わせが必要になってくる。	